

自然散策会

加藤 誓 (ちかい)



パソコンで「名東区自然散策会」が明德公園で6月26日(土) 10時より開催されることを知り、どんなものかと、初めて参加をした。区役所が主催で、12名のボランティアスタッフが案内すること。シニアから幼稚園児、小学生とその家族など、40名程集まった。4グループに分かれ、スタッフの先導で自然観察しながら、林の中の小径を歩き始めた。

スタッフが立ち止まり「この木は、薄墨桜の親戚のエドヒガン桜でこの公園のひとつの顔になっています。咲いたのを想像してください。」と説明。皆、メモを取っている。

散策会のベテランと思いきご婦人が、「あ、あそこにメジロがいる。ほら、そこ！あ、また飛んだ。」皆の顔が、右左、上に下に動く。

林を抜け日当たりのよい、球戯場に来た。「しゃがんで、見てください。これがネジバナで、右巻きと左巻きがあります。」指さす先には、背丈5cm程のピンク色の小さな花が縦に咲いている。名前も知らず、今までじっと見たことはない。草木の名前を知ると親しみや感情が湧くのは、人の名前を初めて知った時と同じである。「タンポポより背丈の高い花の名はブタナと言います。」私も、メモを取った。



大島桜並木を下り駐車場口で休憩、そこから、からす山72.5m目指してゆっくり坂登る。

途中、スタッフがしゃがみ込み「この黒い草は、エンシュウムヨウランと言って、葉っぱがないがランの仲間です。」すると、ベテランのご婦人が「見て。見て。」とスマホの画面を皆に見せる。「このムヨウランの黄色い花を先月、ここへ何遍も通って撮ったのよ。この黒いのは、花が終わった姿よ。」皆が、スマホの花を驚きと羨望のまなざしで覗き込んだ。



次に道端に咲くジャノヒゲの目立たない花を教えてください。

カラス山を過ぎ、たくさんの花が咲き誇っている花壇のところに来た。

その奥にネムノキがそびえ、灰かに赤紫のもじったもじゃもじゃした花が見頃を迎えている。上を眺めていたら、「これが、半夏生(ハンゲショウ)です。」と下の白い一枚の葉っぱをさした。何故か一枚の葉だけが白いのである。早速、撮影をした。



約一時間半で出発点に戻ってきた。「A一班の方、お疲れ様。今日の感想を一言ずつどうぞ。」

「私はネムノキに感動。」「私は、半夏生。」「私は、栗の雄花、と雌花が勉強になった。」

「やはり、ムヨウランかな。」「そこの僕は？カマキリやショウリウバッタが面白かったかな。」

幼稚園の年長さんが「うん。」とうなずいた。

最後に私の番が来た。

「私の観察は、皆さんの行動が一番面白かった。」と。

皆の視線を感じ、軽く頭を下げたら、そのあと笑いが起きほった。



我が家へ帰って車を降りた。珍しいと眺めた「ネジバナ」が何と我が駐車場に咲いていた。びっくり!!



名東区自然散策会令和3年度第1回
明德公園
令和3年6月26日(土)晴れ&曇り

コメント

名前も初耳、存在すら気付いていない、ネジバナ、ブタナ、
じっと眺めていたら、何故か愛おしさすら感じた初散策会。

加藤 誓



A 一班 自然観察風景
子供キャンプ広場から球戯場への林の中
「何鳥か 目と耳尖る 初夏の森」



半夏生
花壇奥、ネムノキの下
「我ありと 白旗掲げ 半夏生」



ジャノヒゲの花
からす山の北の木陰
「貴方だけ ジャノヒゲの花 そっと咲き」